

瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口

令和5年4月1日現在

<目 次>

概 要	1
1 人口推移・増減	2
2 連区別人口推移・増減	2
3 連区別自然増減・社会増減・市内転居	3
4 年齢(3区分)別人口推移	4
5 連区別・年齢(3区分)別構成比	4
6 年齢(4区分)別人口推移	5
7 連区別・年齢(4区分)別構成比	5
8 5歳階級別人口推移	6
9 連区別・年齢(3区分)別・男女別人口	7
10 連区別・年齢(4区分)別・男女別人口	7
11 連区別・男女別平均年齢	7
12 連区別・年齢別・男女別人口	8
参考 連区別町丁名一覧	19

瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口《概要》

令和5年4月1日現在

総人口 127,882人 前年に比べ0.5%減

令和5年4月1日現在の総人口は127,882人で、前年を588人(0.5%)下回り、13年連続の減少となりました。

連区別人口増減

連区別にみると、自然増減、社会増減及び市内転居のすべてにおいて増加したのは東明連区となりました。反対に、自然増減、社会増減及び市内転居のすべてにおいて減少したのは道泉、原山台、萩山台、八幡台、の4連区となりました。

自然増減・社会増減 自然増減 868人減 社会増減 280人増

この1年間の出生者数は699人、死亡者数が1,567人で、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は868人の減となりました。これは、昭和60年に自然増減の比較を開始して以来、初めて減少に転じた平成18年から18年連続での減少です。

この1年間の転入者数と転出者数の差にその他の増減を加減した社会増減は280人の増となりました。

平均年齢 48.2歳 男46.7歳 女49.7歳

平均年齢は48.2歳となり、前年と比べ0.2歳上昇しました。

連区別にみると、萩山台連区で56.8歳、八幡台連区で55.8歳、品野連区で55.4歳、古瀬戸連区で54.7歳、深川連区で53.8歳となり、平均

『瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口』は、住民基本台帳をもとに集計したもので、毎年4月1日、10月1日を基準日とし集計公表しています。

を大きく上回りました。

一方、平均年齢が最も低い連区は山口連区で43.9歳、次いで東明連区で44.3歳となりました。

年齢3区分別人口 年少人口 361人減 老年人口割合 30.0%

年少人口(0～14歳)は前年より361人減少し、総人口に占める割合は12.0%で前年を0.2ポイント下回りました。年少人口の割合が最も高い連区は東明連区(17.8%)で、水野連区(16.3%)、山口連区(15.1%)と続いています。また全ての連区で年少人口が老年人口を下回りました。

生産年齢人口(15～64歳)の割合は58.0%で前年を0.1ポイント上回りました。生産年齢人口の割合が最も高い連区は菱野連区(64.4%)で、長根連区(62.6%)、效範連区(62.2%)の順となりました。

老年人口(65歳以上)の割合は30.0%となり、前年を0.1ポイント上回りました。連区別にみると、老年人口の割合が最も高い連区は萩山台連区(46.2%)で、八幡台連区(45.8%)、品野連区(42.8%)と続いています。

※結果表等における構成比は、四捨五入した関係で一致しない場合があります。

※この冊子及び「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口」は、瀬戸市ホームページに掲載されています。

令和5年4月 瀬戸市 経営戦略部 政策推進課